

### 3. 湿原再生小委員会の施策への展開

## 3-1. 幌呂地区湿原再生事業の目標

# 3-1 幌呂地区湿原再生事業の目標

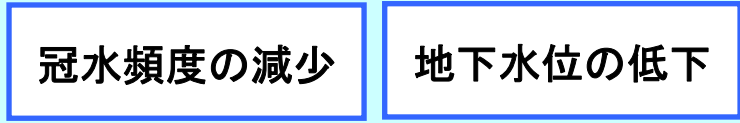
鶴居村幌呂地区の自然再生事業は、かつては湿原だったものが、農地として開発され、現在は未利用地となっている地区を、再湿原化やハンノキ林の林地環境の修復を事業の目標とし、未利用排水路の埋め戻しや地盤の切り下げにより、湿原再生を行おうとしている。

## 幌呂地区の課題

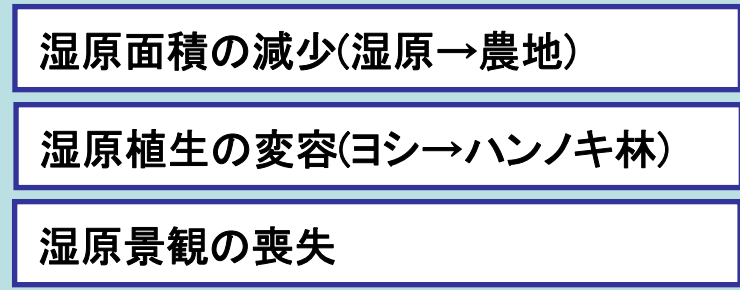
生産性の高い酪農経営の実現を目指し、1970年代から80年代にかけて各種土地改良事業が実施され、農地造成や排水路整備などの生産基盤の整備が図られた。

その結果、湿原の保全という観点から見て、下図の現象や課題が生じた。

### 現象



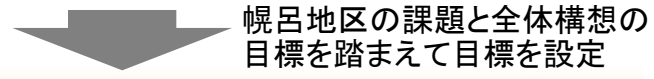
### 課題



## 幌呂地区湿原再生事業の目標

### 全体構想の「湿原生態系と希少野生生物の生息・生育環境の保全・再生」に関する目標

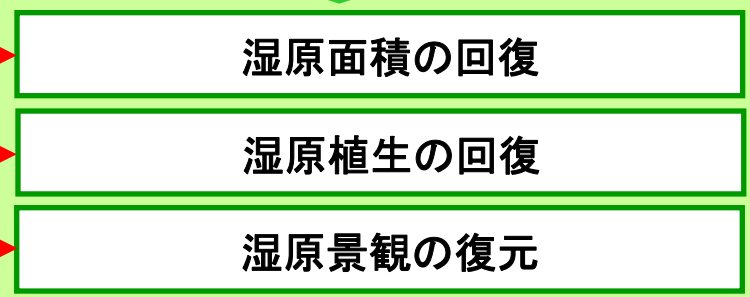
- ・ 良好な湿原の保全
- ・ 湿原の希少な野生生物の生息環境の保全・復元
- ・ 湿原周辺の未利用地等の回復・復元



### 【幌呂地区の湿原再生目標】

- 台地から湿原までの間の湿原移行帯からなる湿原環境の再現
- 高層湿原や赤沼、池塘等、周辺湿原を含む地下水、表流水など良好な水環境の回復

### 目標

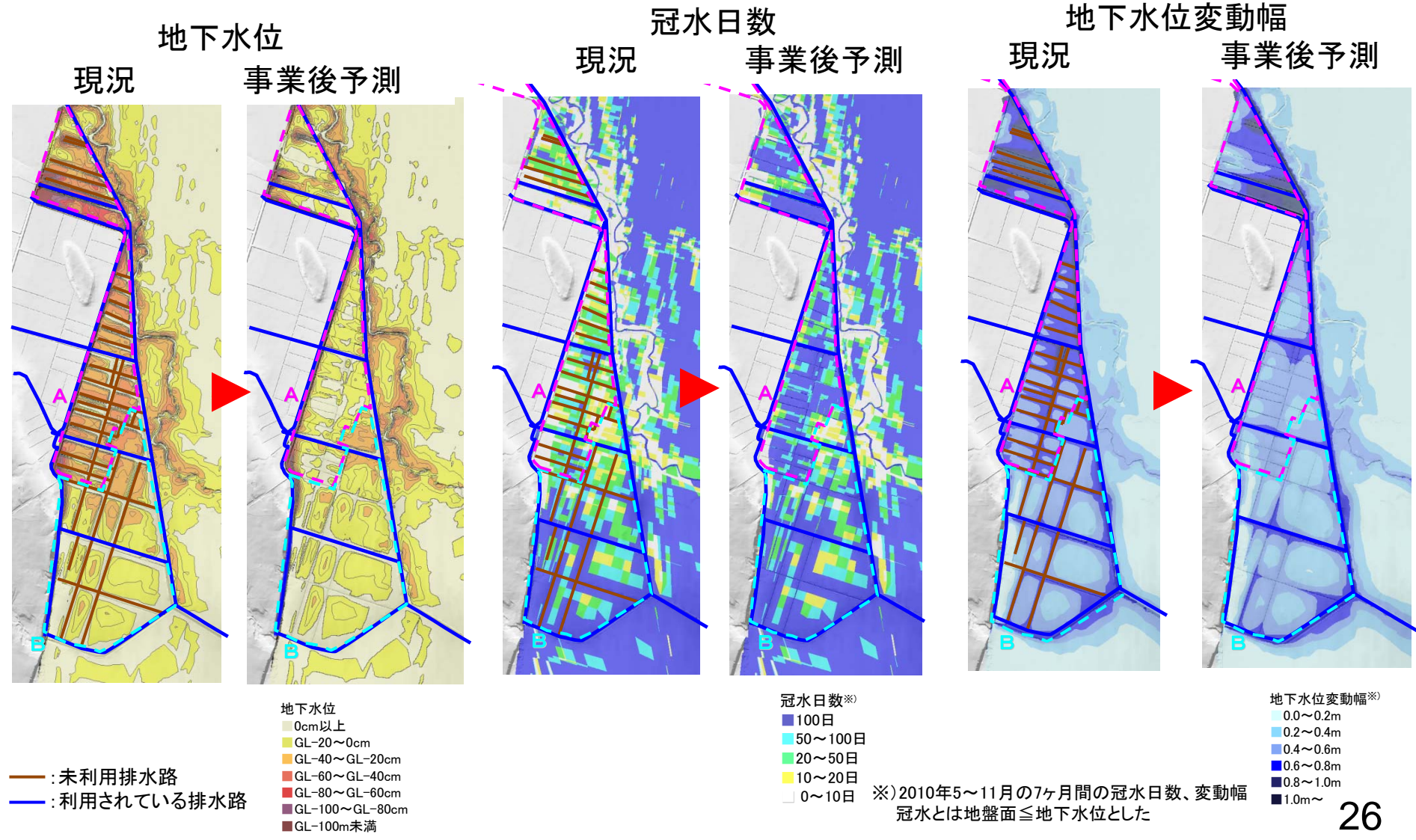


## 3-2. 幌呂地区を対象とした計算結果

# 3-2 幌呂地区を対象とした計算結果

幌呂地区のA地区では未利用排水路埋め戻しと地盤切り下げ、B地区では未利用排水路埋め戻しを行った場合の地下水の計算を行った。

地盤の切り下げを行ったA地区では、地下水位は現況のGL-60~-20cmからGL-20~0cm程度に上昇する、冠水日数は、現況の0~50日であるのに対し、50日以上に上昇する、地下水位変動幅は、現況の0.4~0.8mから0.2~0.6mになるとそれぞれ予測された。



# 3-2 幌呂地区を対象とした計算結果

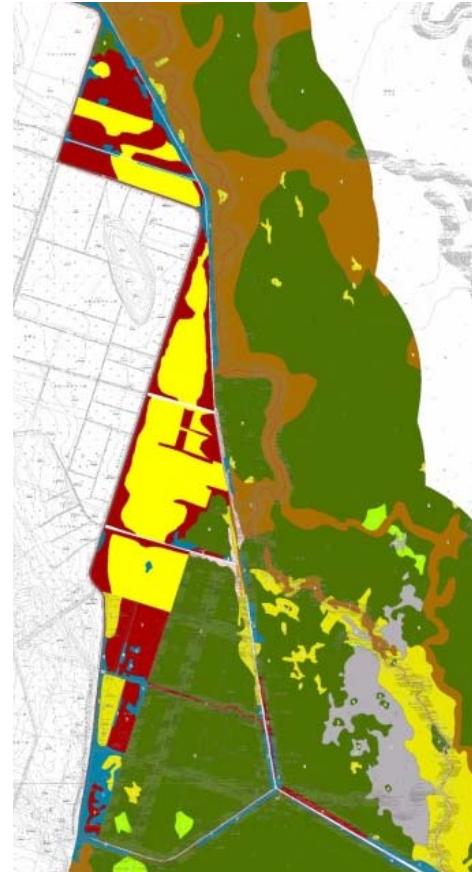
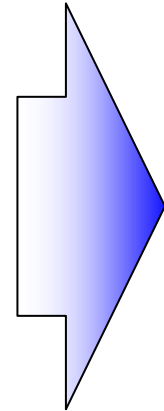
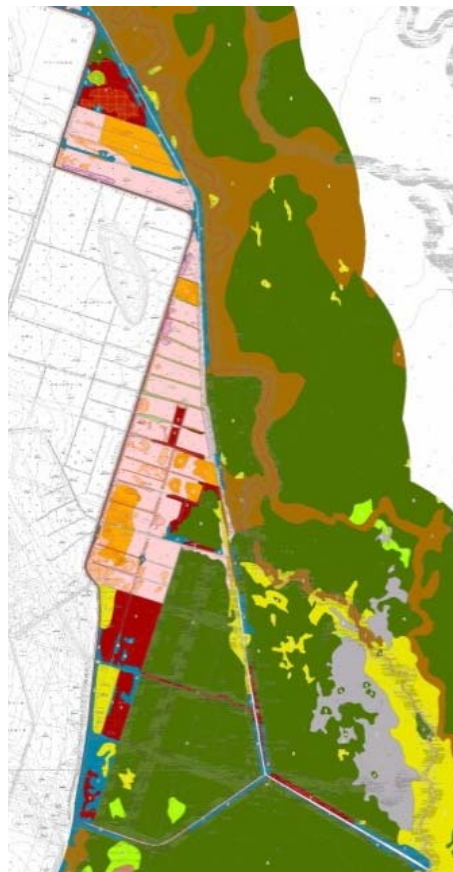
## 参 考

湿原再生小委員会では、幌呂地区の現況の地下水位、冠水頻度及び植生との関係から植生の生育環境模式図を作成しており、地下水位と冠水頻度の予測結果から、事業実施後の植生を予測し、事業実施の評価を行おうとしている。

現況の植生図

予測された事業実施後の植生図

凡例	
1	ハンノキーヤチダモ群落
2	ハンノキ高木群落
3	ハンノキ低木群落
4	ヤナギ群落
5	ヨシ群落
6	スゲ群落
7	ホザキシモンク群落
8	カラフトイソツヅジ群落
9	水生植物群落
10	オオアワダチソウ群落
11	クサヨシ群落
12	道路
13	開放水域



幌呂地区湿原再生実施計画(案)より引用